

農林水産部

屋上バケツ稻の稻刈り体験

8月6日(水)、沖縄総合事務局西庁舎屋上で稻刈りが行われました。当日は、那覇市立さつき小学校の5年生児童3名と先生方2名に参加してもらい、鎌を使って稻刈り作業を体験していただきました。現在さつき小学校では、校内の田んぼとバケツで稻作に挑戦しており、今回は刈り取り前の成熟して黄金色になった稻の観察を兼ねて、学校の水田で9月頃予定の収穫の練習ということでお招きました。

稻刈りは最初は難しそうでしたが、だんだん鎌の使い方や力の加減などが慣れてきてあっという間に終了し、18個のバケツ稻では物足りない感じでした。収穫した稻は10日ほど乾燥して脱穀、もみすり、精米して試食の予定です。

バケツ稻自体は毎年JA中央会が、申し込みのあった全国の小学校で実施しており、県内でも取り組んでいる小学校も多いようです。また、初めて取り組む学校や先生方からは、芽だしや育苗の方法など育て方についての問合せが多く、説明を受けたあとは実際栽培に取り組んでいて、ペットボトルやバケツを使用するほか、さつき小学校のように田んぼを作るところもあります。今後も稻作をはじめ、農作物の栽培体験をおして食に対する関心が高まっていくことを期待しています。



財務部

『米州開発銀行沖縄総会沖縄総合事務局準備本部』の設置について

平成15年7月7日(月)、「米州開発銀行沖縄総会沖縄総合事務局準備本部」を沖縄総合事務局内に設置し、看板掲揚式を行いました。

これは、去る平成15年3月26日(水)、米州開発銀行ミラノ総会において、2005年4月10日(日)~12日(火)の間、第46回米州開発銀行年次総会が沖縄県で開催されることが正式に決定されたことを受けたものです。

準備本部は、沖縄総合事務局長を本部長、両次長を副本部長、各部長を本部員として構成され、財務部内に設置された事務局は、財務部長を事務局長とする9名体制(2名は兼務)となっています。

一方、地元の受入体制として、平成15年8月18日(月)に、沖縄県及び経済団体等からなる「米州開発銀行沖縄総会沖縄実行委員会」(会長:稻嶺県知事)が県庁内に設置されました。

今後は、地元の実行委員会と密接に協力しながら、2005年米州開発銀行沖縄総会の準備作業を進めていくこととしています。



総務部

那覇第2地方合同庁舎(1号館)の落成式を挙行

去る8月19日(火)、那覇第2地方合同庁舎(1号館)の落成式が、関係者約150名の参加のもと、同庁舎2階の共用大会議室において挙行されました。

落成式は、山口修沖縄総合事務局次長の式辞に始まり、工事経過報告、感謝状の贈呈、来賓祝辞、祝電披露、岩崎修沖縄労働局長の謝辞と、滞りなく執り行われました。

那覇第2地方合同庁舎(1号館)は、平成13年3月に着工して以来、鋭意、建設が進められ、本年6月末に「1号館」として完成し、7月末から8月初旬にかけて、順次、各官署の移転が行われ、入居7官署の移転が全て完了しております。

なお、沖縄総合事務局が入居する予定の2号館の建設、さらに、その後の3号館の建設については、早期着工に向けての要求を行っているところであります。

※1号館入居官署(7官署)

- 内閣府 沖縄総合事務局 那覇統計・情報センター
- 総務省 沖縄行政評価事務所
- 原子力安全・保安院 那覇鉱山保安監督事務所
- 国土交通省 沖縄船員地方労働委員会
- 厚生労働省 沖縄労働局
- 厚生労働省 沖縄労働局 那覇労働基準監督署
- 独立行政法人 国立印刷局 沖縄事務所(沖縄政府刊行物サービス・センター)



運輸部

平成15年『海の月間』について

祝日「海の日」は、周りを海に囲まれた我が国が、古くから文化的の交流、人や物の輸送、食料としての水産資源など、様々な分野で海の恩恵を受けてきたことから、国民に、海の重要性を認識してもらおうとする日として、平成8年に制定されました。

この「海の日」の意義を広く理解していただくため、7月1日から7月31日までを「海の月間」とし、全国各地で多彩な行事が展開され、管内においても、「著名人による一日船長」、「港まつり」、「中学生海の絵画コンクール展示会」等の行事が行われました。

大型客船の一日船長を務めた那覇観光キャンペーンレディーの吉直加恵さんは「船での旅は、私達に夢とロマンを与えてくれます。今後とも安全航海に努めてください。」と、船員や関係者に向けてメッセージしました。

この他、行事の一環として海事功労者表彰式典を、「海の日」の翌22日、那覇市内のホテルで開催し、海運、港湾、海洋環境保全関係者等、28名の方々を表彰しました。

また、同式典においては、絵画コンクール受賞者への表彰式も行われ、金賞受賞の里盛みずきさんは謝辞で「絵の具の色の使い方によって海の雰囲気が違ってきます。自分は、美しい海を描くよう一生懸命工夫しました。美しい海がいつまでも残るようにしていきたいです。」と述べ、海と人間の望ましい関わり方について示唆してくれました。



開発建設部

海の日2003 in 那覇・平良・石垣港

2003年7月20日～26日の期間、那覇港、平良港、石垣港において海の日のイベントが開催されました。クルーズイベント等への参加者は延べ2,600人余り、盛況の内に幕を閉じました。

那覇港では7月20日～21日の2日間、大型水中観光船オルカによる那覇港湾施設巡り、那覇港湾施設パネル展が開催されました。那覇港施設巡り参加者からは「海側から港を見ていろんな施設があることがわかった」、「海がきれいで眺めがよい」、「また家族で参加したい」等の好評を得ました。また、同日とまりん広場で「ペリー来航150周年記念イベント『アメリカンフェスタ』」が催され、多数の観光客等も参加しました。



平良港では、7月26日、ハーリー大会、青空市場、巡回船体験航海等が開催されました。ハーリーは宮古まつりのイベントの一つでもあり、1等賞品のやぎ1頭をめぐる男達の戦いに、見物客が大いに盛り上がりました。



石垣港では、体験セーリング、石垣港クルージング、船上コンサートが開催され、多数の観客で賑わいました。同日行った今後整備予定のシーサー灯台に関するアンケートでは、賛成9割以上と地元の期待が伺えました。また、開催イベントについても殆どの方から「楽しかった」等の好意的な意見を頂きました。



例年、各港での海の日のイベントは好評を得ており、今後、更にみんなに親しまれるみなとを目指し、海の日のイベントを継続していきたいと考えています。

経済産業部

エネルギー・シンポジウム2003 in 沖縄の開催

経済産業部では、エネルギーの現状について理解を深め将来のエネルギーを考える機会をつくるため、一般市民等を対象とした「エネルギー・シンポジウム2003 in 沖縄」を8月21日に那覇市内で開催しました。

はじめに、(社)日本消費生活アドバイザー協会の野口博子氏が「エネルギーを見直そう」と題して基調講演を行い、省エネラベル制度の紹介や新エネ導入の必要性についての説明を行いました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、琉球大学の堤純一郎教授のコーディネーターの下、基調講演者の野口博子氏、沖縄電力(株)の新城文博氏、(財)沖縄電気保安協会の照喜名弘光氏、那覇市役所の横山芳春氏の4氏のパネリストが、新エネの導入、省エネの実践、支援制度等について各自の取組み状況等について説明や意見交換が行われました。堤コーディネーターが、「新エネ導入と省エネの実践は表裏の関係であり、電気を作りながら効率よく使うことがステータスとなるような価値観を持つことが求められている。」とシンポジウムを締め括りました。

